

1997年度日本気象学会奨励金受領候補者の募集

日本気象学会は、研究費・研究環境に恵まれないなかで研究・調査に努められている方を奨励するために、「日本気象学会奨励金」制度を1970年に設けました。その後、小・中・高等学校で地学教育に従事している先生のなかで、特に実践的な気象教育を進めている方も奨励できるよう対象を拡げ、気象教育の振興を図る一助にしています。現在、毎年3件、1件につき7万円を贈与しています。

1997年度の奨励金の募集を下記の要領で行いますので、受領候補者を推薦される方、あるいは、受領を自ら希望される方は、申請書を提出してください。

(本募集は日本地学教育学会にも通知を依頼しています)

1996年12月

日本気象学会奨励金受領候補者推薦委員会

山岸米二郎・山下 晃 (担当理事), 加藤諄司, 高野功, 高橋忠司, 名越利幸

記

締切: 1997年2月28日(金) 必着

送付先: 〒100 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁内

日本気象学会事務局気付

奨励金受領候補者推薦委員会

用紙: A4版縦, 横書き

申請書および添付資料

1. 応募対象部門: 一般研究調査または気象教育
(応募内容が両方にまたがる場合は、メインとする部門を選ぶこと)
2. 応募題目
(応募した一般研究調査または気象教育の内容を簡潔に示すもの)
3. 応募者氏名, ふりがな, 印, 生年月日, 勤務先, 職名, および, 連絡先(郵便番号, 住所, 電話)
(共同研究の場合は, 応募者を連記すること)
4. 応募者略歴
5. 応募題目に関して, 過去に実施した事項とその成果の概要, および, 今後取り組みとうと予定している計画の概要(あわせて1,500字以内)
6. 過去の一般研究調査または気象教育に関する出版物, 報告, 資料等(コピーでよい)
7. 推薦者氏名, 印, 勤務先, 職名, および連絡先(郵便番号, 住所, 電話)

(自ら応募する場合でも, 必ず推薦者を付けること)

8. 推薦理由(1,500字以内)

(一般研究調査部門で応募する場合は, 特に応募者の研究環境(指導者, 研究時間, 研究費等)について触れること)

募集概要

1. 採用件数は, 一般研究調査部門と気象教育部門を合わせて原則として3件である。内訳についての決まりはない。
2. 一般研究調査部門
 - (1) 3. の気象教育部門以外の分野の気象学・気象技術に関するテーマについての研究・調査を対象とする。
 - (2) 応募者は, 会員とする。
 - (3) 研究環境(指導者, 研究時間, 研究費等)に恵まれていないことが条件である。
従って, 大学あるいは研究機関に勤務または在学し, 経常あるいは特別研究費の配分を受けて気象学の研究に従事する者は, 原則として奨励金の対象外である。また, 応募した研究調査題目について他機関から既に研究助成金を受けているものも, 原則として対象外である。
3. 気象教育部門
 - (1) 現場における気象教育の実践, または, 教材の開発などの研究調査, ならびに, これら気象教育に関連した研究調査を対象とする。
(一般的な研究調査でも気象教育に結び付くものは, この部門に含まれる)
 - (2) 小・中・高等学校の先生を対象とし, 会員外の応募も受け付ける。
4. 応募題目の内容の評価について
 - (1) 応募題目の内容の完成度の高さは必要条件ではない。
 - (2) 選考には, 過去の調査・研究・実践の経歴およびその内容を重視する。将来の計画は, 過去の実績から十分実行可能であると判断できるものであればよい。
 - (3) 関連学会, 関連研究会や, 関連機関の調査研究会等に発表または投稿がなされていることは, 応募題目の中身について関係者からそ

れなりの評価が与えられたことを示す材料と考える。

その他

1. 選考は、奨励金受領者選定規定（日本気象学会細則）に従って、理事長の委嘱する5名の推薦委員によって行われ、理事長に報告される。
2. 1997年度の奨励金贈呈は、札幌で開催される秋季大会で行う。
3. 過去の受領者
(70)長野 美文, 久保田 効, (71)山川 弘, 竹内 丑雄, (72)杉山 清春, 竹内 新, 地迫良一, 深津 林, 清水 喜允, (73)加藤 一靖, 小岩 清水, 村松 照男, (74)矢野 兼三, 内山 文夫, 櫃間 道夫, (75)岸田 和博, 鈴木 和史, (76)山田 幹夫, 力武 恒雄, 松村 三佐男, (77)小形 明, 宮川 和夫, 永沢 義嗣, 佐々木 芳春, (78)島村 泰正, 伊豆味 正吉, 春日 信, 浦野 弘, (79)木村 悠, 坂上 公

平, 小柴 厚, (80)山中 博, 若原 勝二, 中井 公太, 横山 博, (81)細野 正俊, 西本 洋相, (82)西田 耕造, 山内 博行, 原嶋 宏昌, (83)田頭 正広, 渡部 浩章, 鈴木 欣也, 丹英二, 長島 真, (84)平 隆介, 加藤 敏彦, 柴山 元彦, (85)中田 隆一, 水野 量, 名越利幸, (86)大奈 健, 江上 公, 半田 孝, 瀧島 幸市, (87)入田 央, 三品 博, 榊原 保志, (88)大野木 和敏, 銘苅 真正, 金城 勝重, 橋本 雅巳, (89)松本 崇司, 松田 耕治, 塩澤 定道, 有賀 公平, 西銘 宜正, (90)横田 寛伸, 松村 哲, (91)楨野 泰夫, 浅野 浅春, 岡田 哲也, 居島 修, (92)中田 裕一, 川野 浩, 今 勝義, (93)木俣 昌久, 吉田 洋一, 下畑 五夫, 植田 隆, 古川 善朗, (94)前田 宏, 石原 昭史, 裏川 一雄, (95)小澤英司, 河合 宏一, 中吉 一行, 西岡 佐喜子, (96)四宮茂晴, 大鹿清司

日本気象学会1996年度秋季大会の報告

日本気象学会1996年度秋季大会は、名古屋国際会議場を会場として1996年11月6日(水)～8日(金)に行われた。参加者数は663名であった。

2日目午後には、名古屋国際会議場レセプションホールにおいて、松野理事長の挨拶に続き、山本・正野論文賞が謝尚平氏に、堀内基金奨励賞が山中康裕氏と田平誠氏に授与され、また日本気象学会奨励金が四宮茂晴氏と大鹿清司氏に贈呈された。その後、山本・正野論文賞と堀内基金奨励賞の受賞記念講演が行われた。引き続き、大会シンポジウム「航空機で観る大気—航空機で何がわかるか—」が行われた。

一般講演の発表申込件数は305件(ただし、キャンセルが数件あった)で、最近3年間はほぼ同程度の数となっている。その内訳は第1種講演が240件、第2種講

演が30件、ポスターが35件であった。第2種講演として申し込まれた講演のうち、予稿が第2種の要件を満たさない等の理由でプログラム編成時に第1種に変更したものが8件(前回は6件)あった。最近の傾向としてポスター発表の件数が30件を越えるようになっており、過去2回と同様にポスター・セッションを2回に分け、第1日夕刻と第3日午前に行った。

会期中およびその前日と翌日には、個別のテーマによる研究会が3件開かれた。

最後に、今大会事務局として大会準備・運営にご尽力頂いた名古屋地方気象台、名古屋大学をはじめとする中部支部の皆様は深く感謝の意を表します。

1996年11月 講演企画委員会